

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3902002号

(P3902002)

(45) 発行日 平成19年4月4日(2007.4.4)

(24) 登録日 平成19年1月12日(2007.1.12)

(51) Int. Cl.

E O 4 D 1/30 (2006.01)

F I

E O 4 D 1/30 G O 2 F

請求項の数 4 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2001-384434 (P2001-384434)	(73) 特許権者	395021044
(22) 出願日	平成13年12月18日(2001.12.18)		新谷窯業株式会社
(65) 公開番号	特開2003-184227 (P2003-184227A)		福井県丹生郡越前町小曾原第111号15
(43) 公開日	平成15年7月3日(2003.7.3)		番地の2
審査請求日	平成16年7月21日(2004.7.21)	(74) 代理人	100076484
			弁理士 戸川 公二
		(72) 発明者	新谷 孝雄
			福井県丹生郡宮崎村小曾原111-15-2
		審査官	住田 秀弘
		(56) 参考文献	実開昭60-162617 (JP, U)
			実開昭53-156329 (JP, U)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 屋根の螻羽における敷設袖瓦のセーフティ装飾構造、およびその施工方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

瓦本体1上縁に屋根下地Fへの固定部11が形成され、かつ、一側には下部が外側へ張り出して、表面に少なくとも境界稜線が現出して成る鰓張り部21を有する袖縁2が垂設されており、

前記鰓張り部21の内法寸法は、当該瓦本体1の上縁と其処に連なる袖縁2とを包み込み状態に内嵌可能に形成されていると共に、この鰓張り部21の内面下部には内方へ突出する踏み段22が突成されて、瓦本体1の下縁部を下側に位置する瓦本体1の上縁と袖縁2とを包み込んで内嵌させた際に、下側瓦本体1の袖縁2の下面が上側瓦本体1の前記踏み段22を踏み付け可能な鰓踏み式袖瓦が構成される一方、

複数の当該鰓踏み式袖瓦が屋根の螻羽に沿って軒先から棟部まで敷設されることによって、これら下から上へ縦列した複数の鰓張り部21・21…における境界稜線のコントラストによって連続的な起伏凹凸模様の外観を呈して、かつ、強風時における当該袖瓦の捲れを防止したことを特徴とする屋根の螻羽における敷設袖瓦のセーフティ装飾構造。

【請求項2】

袖縁2の上部に切欠部23が形成されて、瓦本体1の下縁部を下側に位置する瓦本体1の上縁と袖縁2とを包み込んで内嵌させた際に、下側瓦本体1における袖縁下面の前記切欠部23が上側瓦本体1の前記踏み段22を踏み付けるように構成したことを特徴とする請求項1記載の屋根の螻羽における袖瓦のセーフティ装飾敷設構造。

【請求項3】

10

20

請求項 1 記載の屋根の螻羽における敷設袖瓦のセーフティ装飾構造を施工するにあたり

、
屋根の螻羽 V を軒先 E から棟部 R に沿って袖瓦 1・1…を敷設してゆく際に、上側の瓦本体 1 の下縁部を下側に位置する瓦本体 1 の上縁と袖縁 2 とを包み込ませて内嵌せしめると共に、下側瓦本体 1 の袖縁 2 の下面は上側瓦本体 1 の前記踏み段 22 を踏み付けるように組み合わせることを特徴とする屋根の螻羽における敷設袖瓦のセーフティ装飾構造の施工方法。

【請求項 4】

請求項 2 記載の屋根の螻羽における敷設袖瓦のセーフティ装飾構造を施工するにあたり

、
屋根の螻羽 V を軒先 E から棟部 R に沿って袖瓦 1・1…を敷設してゆく際に、袖縁 2 の上部に切欠部 23 が形成されており、瓦本体 1 の下縁部を下側に位置する瓦本体 1 の上縁と袖縁 2 とを包み込んで内嵌せしめると共に、下側瓦本体 1 における袖縁下面の前記切欠部 23 が上側瓦本体 1 の前記踏み段 22 を踏み付けるように組み合わせることを特徴とする屋根の螻羽における敷設袖瓦のセーフティ装飾構造の施工方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、袖瓦の改良、更に詳しくは、見栄えが良く、しかも、簡単かつ確実に瓦同士を連結して敷設することができ、台風や突風などの強風時にも捲れることのない安定的な鰹踏み式袖瓦、および鰹踏み式袖瓦を敷設する方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

屋根に敷設される瓦には、棧瓦、軒瓦、棟瓦などの様々な種類があり、屋根の側縁にあたる螻羽（けらば）には袖瓦と呼ばれる瓦が屋根の軒から棟にかけて上下に並べて施工される。この袖瓦は屋根の上部だけでなく側部も被覆するため、その一方の側端縁に袖縁と呼ばれる下向きに一体に延びる板状部が形成され、これらの袖縁が並列に連設されて屋根の螻羽を側方から覆っている。

【0003】

ところで、袖瓦は非常に目立つ屋根の縁部に敷設されることから、きれいに揃った見栄えの良い袖瓦および施工が必要であった。そのため、例えば、袖縁同士を密着させて袖縁間の隙間をなくす作業を行っていたが、この施工作業にはヤスリがけなどの技巧と熟練を要する上に、施工時間も長くなるという不満があった。

【0004】

また、袖瓦は屋根の側部からも風の影響を受けることから屋根から捲かれる危険性が高く、風速が 30 m/s 以上にもなる台風や突風などの強風に曝された場合、袖瓦が屋根から捲かれて吹き飛んでしまい、更に其処から次々と瓦が捲かれてしまうというおそれがあった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、従来の袖瓦に上記のような不都合があったことに鑑みて為されたものであり、その目的とするところは、見栄えが良く、しかも、簡単かつ確実に瓦同士を連結して敷設することができ、台風や突風などの強風時にも捲れることのない安定的な鰹踏み式袖瓦、および鰹踏み式袖瓦を敷設する方法を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明者が上記課題を解決するために採用した手段を添付図面を参照して説明すれば次のとおりである。

【0007】

即ち、本発明は、瓦本体 1 上縁に屋根下地 F への固定部 11 が形成され、かつ、一側には

10

20

30

40

50

下部が外側へ張り出して、表面に少なくとも境界稜線が現出して成る鰹張り部21を有する袖縁2が垂設されており、

前記鰹張り部21の内法寸法は、当該瓦本体1の上縁と其処に連なる袖縁2とを包み込み状態に内嵌可能に形成されていると共に、この鰹張り部21の内面下部には内方へ突出する踏み段22が突成されて、瓦本体1の下縁部を下側に位置する瓦本体1の上縁と袖縁2とを包み込んで内嵌させた際に、下側瓦本体1の袖縁2の下面が上側瓦本体1の前記踏み段22を踏み付け可能な鰹踏み式袖瓦が構成される一方、

複数の当該鰹踏み式袖瓦が屋根の螻羽に沿って軒先から棟部まで敷設されることによって、これら下から上へ縦列した複数の鰹張り部21・21…における境界稜線のコントラストによって連続的な起伏凹凸模様の外観を呈して、かつ、強風時における当該袖瓦の捲れを防止するという技術的手段を採用した。

10

【0008】

また、本発明は、上記課題を解決するために、必要に応じて上記手段に加え、袖縁2の上部に切欠部23が形成されて、瓦本体1の下縁部を下側に位置する瓦本体1の上縁と袖縁2とを包み込んで内嵌させた際に、下側瓦本体1における袖縁下面の前記切欠部23が上側瓦本体1の前記踏み段22を踏み付けるように構成するという技術的手段を採用した。

【0009】

また、本発明は、請求項1の屋根の螻羽における敷設袖瓦のセーフティ装飾構造を施工するにあたり、

屋根の螻羽Vを軒先Eから棟部Rに沿って袖瓦1・1…を敷設してゆく際に、上側の瓦本体1の下縁部を下側に位置する瓦本体1の上縁と袖縁2とを包み込ませて内嵌せしめると共に、下側瓦本体1の袖縁2の下面は上側瓦本体1の前記踏み段22を踏み付けるように組み合わせるという技術的手段を採用することによって屋根の螻羽における敷設袖瓦のセーフティ装飾構造を施工することができる。

20

【0010】

また、本発明は、請求項2の屋根の螻羽における敷設袖瓦のセーフティ装飾構造を施工するにあたり、

屋根の螻羽Vを軒先Eから棟部Rに沿って袖瓦1・1…を敷設してゆく際に、袖縁2の上部に切欠部23が形成されており、瓦本体1の下縁部を下側に位置する瓦本体1の上縁と袖縁2とを包み込んで内嵌せしめると共に、下側瓦本体1における袖縁下面の前記切欠部23が上側瓦本体1の前記踏み段22を踏み付けるように組み合わせるという技術的手段を採用することによって屋根の螻羽における敷設袖瓦のセーフティ装飾構造を施工することができる。

30

【0011】

【発明の実施の形態】

本発明の実施形態を具体的に図示した図面に基いて更に詳細に説明すると次のとおりである。

【0012】

『第1実施形態』

本発明の第1実施形態を図1から図4に基いて説明する。図中、符号1で指示するものは瓦本体であり、この瓦本体1上縁には屋根下地Fへの釘孔として形成された固定部11が設けられており、一側には下部が外側へ張り出して、表面に少なくとも境界稜線が現出して成る鰹張り部21を有する袖縁2が垂設されている。

40

【0013】

前記鰹張り部21の内法寸法は、当該瓦本体1の上縁と其処に連なる袖縁2とを包み込み状態に内嵌可能に形成されていると共に、この鰹張り部21の内面下部には内方へ突出する踏み段22が突成されている。

【0014】

そして、瓦本体1の下縁部を下側に位置する瓦本体1の上縁と袖縁2とを包み込んで内嵌させた際に、下側瓦本体1の袖縁2の下面が上側瓦本体1の前記踏み段22を踏み付ける

50

ように構成されている。

【0015】

こうして作製された袖瓦を使用する方法を以下に説明する。まず、屋根の螭羽Vを軒先Eから棟部Rに沿って袖瓦1・1…を敷設してゆく際に、上側の瓦本体1の下縁部を下側に位置する瓦本体1の上縁と袖縁2とを包み込ませて内嵌せしめる。

【0016】

そして、それと共に、下側瓦本体1の袖縁2の下面は上側瓦本体1の前記踏み段22を踏み付けるように組み合わせてゆくことができる。この際、固定部11において止め具3で固定することによって一枚の設置が完了し、同様にして棟側に順次敷設してゆくのである。本実施形態では、止め具3として釘を使用し、屋根下地Fの瓦棧に打ち込んで固定することができる。

10

【0017】

『第2実施形態』

本発明の第2実施形態を図5および図6に基いて説明する。本実施形態においては、袖縁2の上部に切欠部23が形成されて、瓦本体1の下縁部を下側に位置する瓦本体1の上縁と袖縁2とを包み込んで内嵌させた際に、下側瓦本体1における袖縁下面の前記切欠部23が上側瓦本体1の前記踏み段22を踏み付けるように構成したことが第1実施形態と相違する点である。

【0018】

そして、本実施形態の袖瓦を使用する方法は、屋根の螭羽Vを軒先Eから棟部Rに沿って袖瓦1・1…を敷設してゆく際に、袖縁2の上部に形成された前記切欠部23を、瓦本体1の下縁部を下側に位置する瓦本体1の上縁と袖縁2とを包み込んで内嵌せしめると共に、下側瓦本体1における袖縁下面の前記切欠部23が上側瓦本体1の前記踏み段22を踏み付けるように組み合わせるのである。

20

【0019】

本発明は概ね上記のように構成されるが、本発明は図示の実施形態に限定されるものではなく、「特許請求の範囲」の記載内において種々の変更が可能であって、例えば、袖縁2の形状は、縁幅が上部に至るほど漸減的に小さくなる形状のものであれば、切欠部は特に設ける必要が無く、形状の設計変更も自由である。

【0020】

また、瓦本体1の横断面形状は、図示したデザインのものに限らず、波形状であれば、雨水が流れ易くて都合が良い。また、止め具3は釘を使用して屋根下地Fの瓦棧などに打ち込んで固定したり、番線などの針金部材あるいは紐を挿通して屋根下地Fに結束して固定しても良く、何れのものも本発明の技術的範囲に属する。

30

【0021】

【発明の効果】

以上、実施形態をもって説明したとおり、本発明においては、鰓張り部を袖縁から外側に若干持ち出して成形したことによって、この袖縁に作出した鰓張り部を袖瓦の上縁に差し込むことができ、しかも、袖縁の下面が踏み段を踏み付けると、持ち上げ方向にかかる力に対する反力が大きくなり、袖瓦の捲くれを効果的に防止することができる。

40

【0022】

また、従来のように、上に積み重ねられた瓦の荷重あるいは止め具のみによる固定の強度と比較すると、本発明においては鰓張り部における踏み段の踏み付け作用が加わったことによって、安定度を増して敷設することができるのである。

【0023】

また、施工においても上から順次差し込んでゆくだけで良いので、非常に簡単であって、袖縁の隙間を埋めるといった加工作業の必要もなく、また、側部から見ると袖縁の鰓張り部が持出成形されているので、起伏の凹凸模様がアクセントとなって見栄えが非常に良いことから、実用的利用価値は頗る高いものと云える。

【図面の簡単な説明】

50

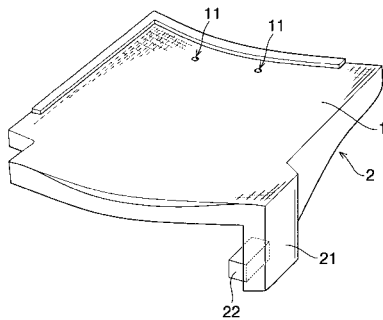
- 【図 1】 本発明の第 1 実施形態の袖瓦を表わす全体斜視図である。
 【図 2】 本発明の第 1 実施形態の袖瓦の裏面を表わす全体斜視図である。
 【図 3】 本発明の第 1 実施形態の袖瓦の施工手順を表わす説明側面図である。
 【図 4】 本発明の第 1 実施形態の袖瓦の施工手順を表わす説明斜視図である。
 【図 5】 本発明の第 2 実施形態の袖瓦を表わす全体斜視図である。
 【図 6】 本発明の第 2 実施形態の袖瓦の施工手順を表わす説明側面図である。

【符号の説明】

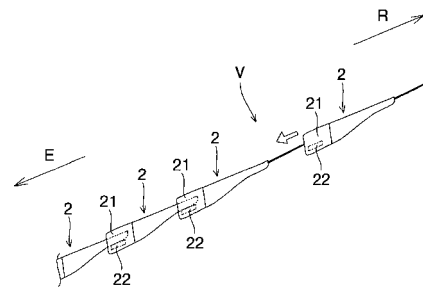
- 1 瓦本体
 11 固定部
 2 袖縁
 21 鰓張り部
 22 踏み段
 23 切欠部
 3 止め具
 F 屋根下地
 V 螻羽
 E 軒先
 R 棟部

10

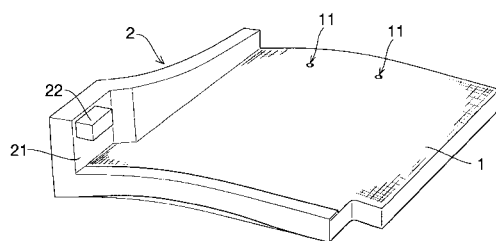
【図 1】



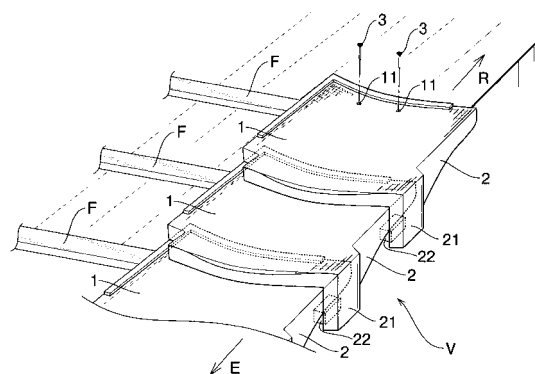
【図 3】



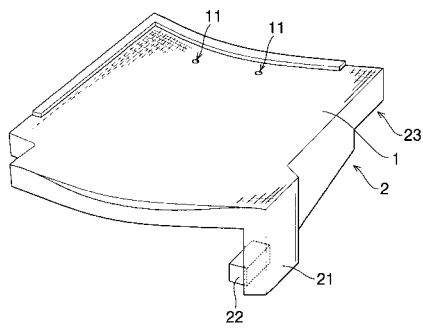
【図 2】



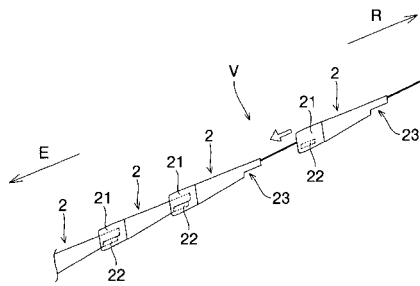
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

E04D 1/30